

# 大紀森林組合だより

平成18年10月



大紀町大内山  
犬塚山の秋

表紙 中谷よう子さん

三重県東会郡大紀町崎 239-2

TEL 0598-74-0224

FAX 0598-74-0379

業務 E-Mail daikisin@ma.mctv.ne.jp

総務 E-Mail daikisom@ma.mctv.ne.jp

もくじ	
🌿 発足後15年の経過と今後の方向	1
🌿 新しい作業システムによる 地域材の活用に向けて	2・3
🌿 地区懇談会結果報告	4
🌿 ボランティアとの植栽・購買紹介	5

## ボランティア 共同作業による植栽



ケヤキ  
モミジ  
アカガシ  
ヒノキ



厳しい林業情勢のなか、未植栽の放置林や管理されない荒廃林が増加し、森林の公益的機能が発揮されずにいます。

このため、当森林組合が社団法人三重県緑化推進協会のご協力を得て、公益的機能の向上と住民の安全・安心の確保を目指し、植栽ボランティアの参加を呼びかけたところ、遠くは四日市市からグリーンボランティア「森林づくり三重」の方々9名と伊勢農林水産商工環境事務所の職員の参加を頂きました。

放置林の提供を受けた現地は、地上権山であるため個人の伐採後木屋区に返還された山林で、大紀町永会地区県道下楠南島線沿いの藤川に面した所です。面積はわずかでしたが、雨上がりの4月16日(日)、環境に配慮した針葉樹(ヒノキ)・広葉樹(ケヤキ・モミジ・アカガシ)の混交林植栽を実施しました。多様な森林づくりに参加して下さい皆さんありがとうございました。

この山林は今後も森林組合、ボランティア、地域住民等により適正に管理されます。

### かんきょう かんきょう かんきょう



135ml ¥1,100

### 困っていたのよ!

山林だけでなく人里でも山ビルが生息するようになり、田のあぜを歩くのにも注意しないといけない話をよく耳にします。この「ヤマビルファイター」は足元から近づいてくるビルをよせつけない薬です。布や革の靴や衣類の場合は乾燥させてから着用し、ビニールの場合は現地に入る直前にスプレーしてみてください。



### 造林補助事業受付中 (19年度は18年10月末まで)

生産林では各種補助事業を利用して山の手入れを行う事ができます。採択条件等詳しい内容は当組合に連絡して頂ければご説明致します。あなたの手で山を守り、育てることが出来るかもしれません。あきらめないで下さい。

編集後記  
歩き方が妙な若者が増えていました。骨格が曲がっているのか、靴が合っていないのか、栄養が偏っているのか、大地を蹴っていない。バランスが取れたものは山も環境も生物も美しく健全です。私たちはその為の努力を怠ってはいけません。

## 地区懇談会結果報告

地区懇談会での質疑応答  
平成18年7月11日～7月13日  
組合員みなさまのご意見を反映できるように努力していきます。

Q 組山や氏神山の世話人も高齢化している。森林管理事業を委託する場合、以前の補助事業時の実測図が有ればその分の経費を差し引きして頂けるのか?

A 実測図があれば、境界表示費と事務経費のみの費用請求になります。

Q 林道より400m以遠の組山が存在するが、環境創造事業、森林管理事業とどちらで対応すれば良いか?

A 森林環境創造事業の対象山林は造林補助を受けられないが、20年間森林組合で管理させて頂く。その間に要した経費は県、町で負担される。所有者は一切のりません。森林管理事業は、測量及び製図、境界表示を行い台帳を作成し管理します。経費は36,750円/haかかります。以上の事から判断して下さい。

Q 天然林の受光伐作業は不必要であると思。人手を掛けなくても自然と淘汰されていくのでは?

A 受光伐作業については所有者の要望を考慮し実施します。内

容は株立ちの木を整理し新芽を立てての獣害対策や、或いはクヌギ等の落葉広葉樹を残し、土砂流出防止等の目的で行う環境対策、一方でシイ、カシなど成熟した林分やシャクナゲ等の群生地などはあえて手をいれずに保存林として残すなど、現地の状況に応じた作業方法を行なっています。今日お聞きしたご意見を充分考慮しながら対応させて頂きます。

Q 団体山においても今後の維持管理が大変かと思う。どのような対応があるか?

A 維持管理については、森林組合の賦課金も大きな負担であるというところで17年度より廃止に踏み切った。組合の森林管理事業をご利用頂くか、他にはボランティアにフィルドを提供し管理することも始まっている。森林管理についての補助事業は無く今後の課題になっていきます。

Q スギ・ヒノキだけでなくケヤキ等の有用樹種の植栽を考えてほしい。少しでも高く売れる地域材を目指し、林業に還元することを目標に掲げてほしい。

A 伐採跡地についても今年の春ボランティアの協力を得て、ケヤキ等の広葉樹を植栽しました。又地域材については生産コストを下げるための作業道を開設し、高性能林業機械を利用し少しでも組合員に還元できるように努力致します。

Q 山林を育て作業道を開設し伐採搬出するだけでなく、その後の地域材をどの様に加工し販売していくかということも大紀の組合として視野に入れるべきではないか?

A 理事会で検討していきたいと思

Q 林業の現状が厳しい中、組合は賦課金の廃止に踏み切ったが今後の見通しはどうか?

A 賦課金の廃止により林業収入が見込まれない今、団体山の維持管理が非常に厳しい状況にあることも要因の一つとして挙げられています。組合の経営は公共予算等の削減の中で大変厳しい環境に置かれています。今後は公共の減少分をそれ以外の事業で補えるよう努力していきたいと考えています。

Q 自動車道に係る山林の伐採搬出を個人でするか森林組合でやるつもりか迷っている。

A 流し谷等6〜7割は組合で作業させていただきました。見積りもさせて頂いた上で、それで判断してもらったらいかがでしょうか。

Q 杉、松に固守する傾向にあるようですが、私が家屋を新築した時、そういう国産材を使用するより10年保証を確保する為、外材の集成材を使うと言われた。ニューシールドでは15年の計画伐採をするということにより利益を上げていくので、日本でも杉、松にこだわらずそういう体制に方向転換することを考えてはいいでしょうか。

Q ご指摘のように、これからは既存の考え方に捉われない発想も大切になってくると思えます。また、国産材についてですが、最近国内の大手住宅メーカーが住宅の

柱材を欧州材から国産のスキ材に切替えたという情報を聞いておりますし、一方、国の方でもヒノキの並材を主に生産から流通加工までの体制を再構築する新たな事業を計画しており、今後は次第に国産材使用の方向に進んでいくものと思われれます。

Q 農業にかかると獣害の問題が大きい中、小規模な者への補助事業がなく、自己負担でまかなわなければならない状況です。今後は農業と林業との繋がりを強調して対策をとるべきではないか?

A 林業でも獣害は非常に大きな問題です。そうしたご意見を地域に反映できるよう行政当局へ要望していきたいと思えます。

Q 森林経営拡大の為に組合の規模をもっと大きくしたい方が多いのではないかと、賦課金廃止に続き、将来的には出資金の配当が出来る/らうという事業を展開し、森林のフロクとしての位置づけを確立してほしい。

A 現時点で組合の合併の構想はありませんが、林業の担い手としての強い意識を持ち努力していく所存です。

Q 40年借地山について後5年で期限が来るが、材価が低迷している今、何かいい方法はないか?

A 道をつける、又伐採をするにしても補助金等を利用し有利な方法を考えるべきです。組合ではいろいろな条件で見積りさせて頂くことが出来るので相談して下さい。

Q 借地山の件ですが、昭和36年頃に契約した山の伐採時期が来ている。ごとうとう方向が望ましいか?

Q 最近では、錦地区の官行造林地の伐採時期の例があるので説明します。契約は更地で返すことになっているが現実には不可能である。国の見解は、町村に資金があれば分取は町村に買ってもらいたい意向である。区有林は10年毎に延長する方針です。公園造林については契約延長になっている。又一部は復舊林化にして山を守っているという方向もある。いろいろな選択技を模索中であるが基本的には伐期延長が望ましいように思っています。

Q 違法伐採の木材がそつでないかはご判断をするのか。また証明書は必要か?

A 購入時の伝票で判断する。これは国と県等が扱った木材のみの規制となっており現在は必要ない。しかし、海外の違法伐採が問題になっていることもあり近い将来こういった届出が必要になってくると思う。

Q 自分の山であってもこのような届出がなぜ必要なのか?

A 届出は以前から必要だった。除伐は必要ないが、間伐等が必要で



# 発足後15ヶ年の経過と今後の方向

## はじめに

平成3年4月に大紀森林組合が発足してから15ヶ年が経過しました。地域林業の担い手として、今日まで無事に組合活動を継続してこれましたのも、偏に組合員の皆様をはじめ、行政当局並びに関係機関各位の温かいご指導、ご協力の賜と深く感謝を致しております。

## 経過

まず発足後は造林事業を中心に取組みが始まりました。しかしその後、木材価格の下落が止まらず、それにより放置林が増加し、また世代交代による境界の不明確化が進むなど林業を取り巻く環境は厳しさを増してきました。

そうした状況の中で当組合では地区懇談会を実施し、組合員の皆様からのご要望を取り入れながら、森林管理、作業道施行、素材生産等、各種事業への伸展に努めてまいりました。

一方、平成13年には新たな森林・林業基本法が公布され、これまでの木材生産を主体とした林業面の施策から、森林の持つ公益機能を発揮させる為の環境面を重視した施策へと方向転換がされました。当組合も大内山川という宮川支流の重要な水源地域に位置していることから、平成14年からはチェーンソー及び高性能林業機械のチェンオイルについては全て従来の鉱物性から分解の早い植物性に切替えました。

又、災害防止の為の壊れない道づくりや現地の状況に応じた人工林における等高線伐倒、及び、天然林施業など環境面に考慮した作業方法の改善にも前向きに取り組んでまいりました。

## 今後の方向

引き続き組合活動を継続し、充実させていく為には行政当局からのサポートは不可欠ですが、基本的に次の三つの要素が大切であると認識をしております。

- 協同組織としての役割を自覚する。
  - 事業活動を通して組合員皆様へのサービスを行なう。
- 堅実な経営を目指す。
  - 地域に促し、且つ、組織の規模に応じた事業展開と自助努力。
  - 雇用の充実と社会的責任を果す。
- 地域との繋がりを大切にす。
  - 学校活動及びボランティア活動へのサポート等を実施する。

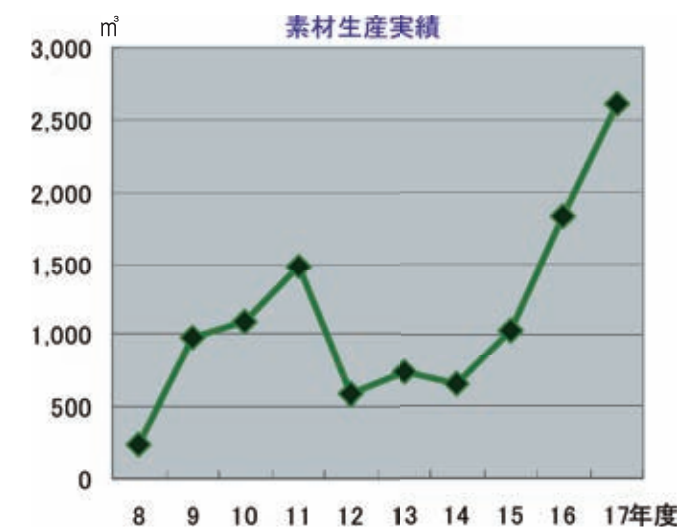
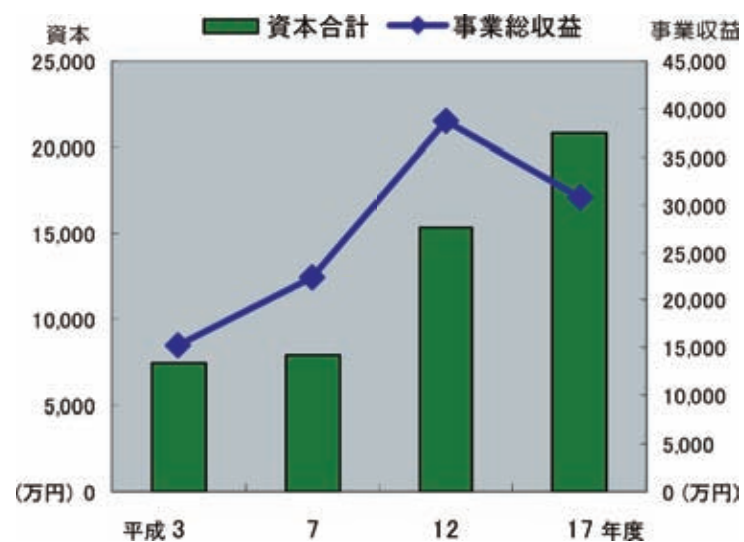
今日、地球温暖化が気候変動をはじめとする様々な分野に及ぼす影響が懸念されています。それに関連して、我国の森林においても、現在、人工林の齢級構成は間伐の適齢期にあたる31～45年生の林分面積が最も多くなっており、今後その林分を主に利用間伐を進めていくことが、CO<sub>2</sub>の固定、吸収を促進し、しいては温暖化防止に役立つものと考えられています。

又、そういった観点からも森林組合に対し本業回帰の声が高まってきております。当組合ではそうした流れの中で、これから先、木材生産のコストを抑える為の道づくりと機械化及び施業の団地化と作業方法の確立に向けて一層力を注いで行くとともに、各種事業の充実と連携に努め、総合的な森林整備を推し進めていきたいと考えております。

15周年を一つの区切りに役職員、従業員一同、協同組織としての役割を果すべく更なる努力をしていく所存ですので、どうか今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

代表理事組合長 山添 裕康

## 大紀森林組合15年の推移



## 素材生産用機械保有台数(H17)

スイングヤーダ	1台
タワーヤーダ	1台
プロセッサ	1台
グラップル	2台
林内作業車	1台
トラック他	4台

# 新しい作業システムによる地域材の活用に向けて

## 一 団地化による列状間伐の推進

業務課係長 服部 和徳

当組合では、平成8年度より本格的に皆伐及び利用間伐等の林産事業への取り組みを始め、これまで

- ①若手現業職員の確保と養成 (人)
- ②作業道開設の知識・技術の向上 (道)
- ③高性能林業機械化と生産コストの削減 (機械)

に重点を置き、事業を進めてまいりました。

しかしながら今日、林業を取り巻く様々な要因により、人工林の長伐期化が進む中、当組合として更なる事業の充実を図っていく為の、新しい伐出作業方法のひとつとして列状間伐を取り入れました。

平成17年度に作業効率を上げる為にスイングヤーダを導入し、これまで官行造林及び機構(旧公団)造林地を対象に作業を実施し、効率的な作業システムの確立に努めてまいりました。

今後は、今まで積み上げてきたノウハウ(知識・技術・経験)を生かし、組合員の方々との相互理解のもと、森林組合が個人所有林を施業単位でとりまとめ団地化し、この作業システムにより、組合員の方々に利益を還元できるような提案型集約施業をめざしていきたく考えています。



作業道の開設が必須である作業システム

列状間伐の生産コストはいくらか?(1㎡当り)

内 訳	1㎡あたりの経費	割合
賃 金	6,000円	46%
社会保険料等	1,500円	11%
燃 料 代	600円	5%
機 械 使 用 料	4,300円	33%
組 合 手 数 料	600円	5%
計	13,000円	100%

※作業現地の条件として、林齢がおおよそ45年生以上で作業道が整備されており、伐出作業が容易な現地での伐採→集材→造材→積込・運搬までの標準的な生産コストを表示しました。但し、調査費は含んでいません。



4残2伐の列状間伐施業直後

## ● 列状間伐とは？

利用間伐作業を、従来の点状に伐採する方法とは異なり、作業道等に対して垂直に列状に伐出する方法で、低コストでの作業が可能のため、扱う材によっては、収入を得ることができます。1列伐って3列残す1伐3残方法(間伐率25%)や1列伐って2列残す1伐2残方法(間伐率33%)などがあります。

## 作業システム

伐倒 → 全木集材 → 枝払・造材 → 積込み → 運搬



チェーンソー



スイングヤーダ



プロセッサ



グラップル



トラック

## どんな森林になるか？

列状間伐は、基本的には大径木森林(80～100年生程度)づくりをめざす時に、実施すべき作業方法だと考えています。長伐期多間伐施業(大径木森林になるまで何回か間伐を繰り返す。)を行なうことにより、従来の点状間伐を実施した森林と遜色ない森林づくりをイメージしています。



搬出作業中のスイングヤーダ